

これまでの防災スペシャリスト養成研修について

● 主な変遷

平成**25**年度

- 【開始】有明の丘研修：4コースの研修【対面研修】<有明の丘基幹的広域防災拠点施設>
【防災一般コース(4日×2回), 防災中堅コース(4日×2回), 幹部コース(2日×2回), 総合コース(10日×2回)】
- 【開始】OJT研修

平成**26**年度

- 有明の丘研修：10コースに拡大した研修【対面研修,1コース×2日×年2回】<有明の丘基幹的広域防災拠点施設>
【①防災基礎, ②減災対策, ③訓練企画, ④警報避難, ⑤物資物流・広域行政,
⑥避難収容・被災者支援, ⑦復旧復興, ⑧計画立案, ⑨広報, ⑩総合】

平成**28-29**年度

- 有明の丘研修：10コースの見直し【対面研修, 1コース×2日×年2回】<有明の丘基幹的広域防災拠点施設>
【①防災基礎, ②災害へ備え, ③警報避難, ④応急活動・資源管理, ⑤被災者支援,
⑥復旧・復興, ⑦指揮統制, ⑧対策立案, ⑨人材育成, ⑩総合監理】

令和**元**年度

- 【開始】地域研修【対面研修, 2日×実施団体数】
【熊本県, 大分県, 広島県, 静岡県, 奈良県】

令和**2**年度

- 有明の丘研修&地域研修：オンライン研修を実施【オンライン研修】
有明の丘研修【1コース×(座学(2週間)<オンデマンド講義>, 演習(半日)<リアルタイム演習>】×10コース×年2回
地域研修【座学(1ヶ月):オンデマンド講義】×7団体

● 実績

	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	累計
有明の丘研修 修了者数[人] (応募者数[人])	306	667	726	980	1,059	1,089	946 (2期:945)	1,017 (2,829)	6,790
地域研修 修了者数[人] (団体数)	-	-	-	-	-	-	151 (5団体)	245 (7団体)	396
OJT研修 修了者数[人]	33	19	24	28	27	32	37	44	283

防災スペシャリスト養成の課題について

(※令和2年度第5回防災スペシャリスト養成企画検討会より)

【課題1】 レベルに応じた学習内容 【課題2】 新しいニーズへの対応 【課題3】 講義時間や回数の充実

- ➡ 有明の丘研修、地域研修の座学（オンライン）コンテンツの充実 【△】
(社会情勢やニーズを踏まえた単元の設定の検討 等)
- ➡ 新たなニーズに即したコース新設を検討 【×】
- ➡ 有明の丘研修と地域研修の連携を踏まえた検討 【×】

【課題4】 レベルに応じた人材ネットワークの構築

- ➡ 有明の研修、地域研修の対面演習などの充実 【△】
(基本的に演習は顔の見える関係ができる対面で実施。メールマガジン等。)

【課題5】 学ぶべき時期と研修時期 【課題7】 短時間で理解できる教材

- ➡ eラーニングの推進 【△】
(本年度、eラーニングの公開を実施)

【課題6】 トレーナーの育成

- ➡ 研修指導要領の作成等と併せた新しいコンテンツの整備 【×】

今後の防災スペシャリスト養成の在り方に関する事項

主に、有明の丘研修について、今後、以下に関して検討する。

- ① **研修の受講者**
(受講者像 等)
- ② **研修の手法**
(オンラインの活用 等)
- ③ **構成、内容**
(コースの再編、研修指導要領の改編、
人材ネットワークの取り組み、トレーナーの育成 等)
- ④ **修了者の能力評価**
(フォローアップ、能力評価の活用、修了歴の共有、資格 等)
- ⑤ **その他**
(地域研修の在り方、他の研修の認証、OJT研修 等)



新しい研修を構築し、
令和5年度からの実施を目指す

応

募

受

講

①研修の受講者
(受講者像)

対象者とコース/テーマ

座学

演習

災害対応の
基礎を学び
たい職員

基礎

活動の前提（防災活動を行う上での枠組み）、最低限理解しておくべき基礎的な知識を学ぶ

防災基礎

個別課題の
対応に専門
的に従事
する職員

専門

活動遂行能力（個人の能力）として、防災活動を行う上で不可欠な事項や情報に関する知識・技能・態度を学ぶ

警報避難

災害への備え

応急活動

被災者支援

復旧・復興

本部運営の
中枢的役割
を担う職員

総合

防災対策における総合調整に係る知識・技能・態度を学ぶ

資源管理

指揮統制

対策立案

人材育成

総合監理

オンデマンド講義

②研修の方法
(オンラインの活用)
(受講者の拡大)

オンデマンド講義

③構成・設定
(研修内容の拡充)

オンデマンド講義

リアルタイム型演習 OR 対面型演習

リアルタイム型演習 OR 対面型演習

リアルタイム型演習 OR 対面型演習

③構成・設定
(コース設計の見直し)
(研修指導要領の見直し)

「防災スペシャリスト」に求める
人材像を育成する場の範囲

危機事態に迅速・的確に対処できる人材を育成する

国・地方のネットワークを形成できる人材を育成する

修

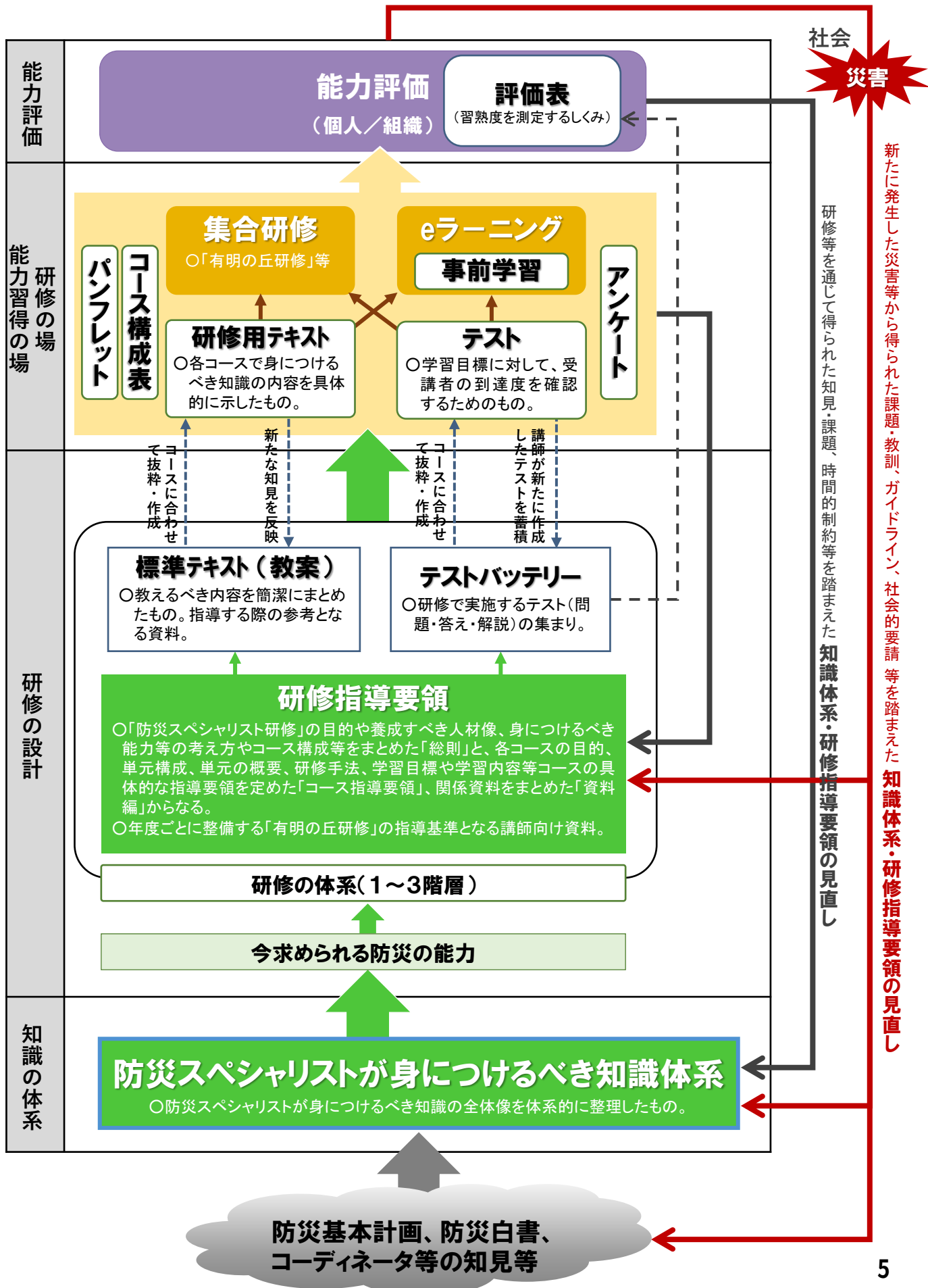
了

④修了者の能力評価
(評価の活用、修了歴の共有)

フォローアップ研修

④修了者の能力評価
(フォローアップ)

「標準的な研修を確立するための活動要領」の検討にあたっての概念整理(案)

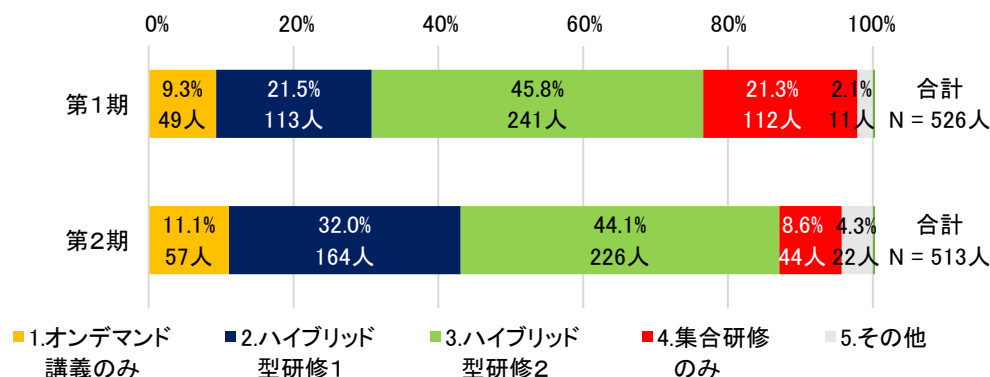


新たに発生した災害等から得られた課題、教訓、ガイドライン、社会的要請等を踏まえた知識体系・研修指導要領の見直し

オンラインを活用した研修の手法（オンラインの活用 等）

昨年度実施したアンケートにて、有明の丘研修に希望する研修の実施形態について質問したところ、「ハイブリッド型研修」（座学講義のオンデマンド化）の実施が多く求められているところである。感染症終息後においてもハイブリッド型研修を継続してはどうか。

令和2年度有明の丘研修「希望する研修の実施形態」



実施形態	内容
オンデマンド講義のみ	座学の内容をオンデマンド講義で学ぶ研修（受講:約10時間）
ハイブリッド型研修1	座学の内容をオンデマンド講義で学び、演習をリアルタイム演習で学ぶ研修（オンデマンド講義:約8時間＋リアルタイム演習：半日程度）
ハイブリッド型研修2	座学の内容をオンデマンド講義で学び、その応用的な内容や演習を施設に集まって学ぶ研修（オンデマンド講義:約8時間＋集合研修：1日程度）
集合研修のみ	座学や演習を施設に集まって学ぶ研修（受講:2日間）

社会的な情勢に応じた研修実施手法

有明の丘研修

パターンA

感染症リスクが高く、対面での演習は開催不可の状況の場合

パターンB

感染症リスクが低く、十分な感染症対策をしたうえで対面での演習開催が可能な状況の場合

オンデマンド講義



リアルタイム演習

オンデマンド講義



対面での演習

※この他、オンラインの活用等について、構成・内容の検討に合わせて実施。